1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400032		
法人名	アーバンエステート		
事業所名	グループホーム ごえくの里		
所在地	沖縄市 越来3-11-20		
自己評価作成日	平成29年 8月22日	評価結果市町村受理日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=4790400032-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成29年 9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、ゆつくりと過ごす時間や希望する入居者が共有する活動の時間を持ちながら、日々の生活を楽しんでいる。入居者が同士がお互い協力しできない部分を出来る方が手伝いをする等互いを思いやれる家族のような施設である。又、買い出し、調理手伝い、洗濯たみ等個々の持っている能力が活かせるように支援し、活気溢れ楽しい、和やかで落ち着ける施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は住宅地内に位置し、2階建て住宅の2階にあり、1階は小規模多機能型居宅介護事業所である。事業所の理念は利用者の現状に合わせ、今年4月に全職員で話し合わせ、利用者のありのままを受け入れることをモットーに新たな理念に作り替えている。運営推進会議には自治会長や近隣の保育園園長も参加する等、日頃から地域とのつながりを大切にされた運営がされている。地域の防災マイクが聞こえにくい等の意見を運営推進会議等で伝えることで、行政より防災行政無線デジタル戸別受信機の事業所設置に繋がっている。代表者や管理者は、日頃から行政と連携しており、講師依頼や市の協力を得て役所で認知症カフェを実施している。就業環境の整備については、各職員の私生活も考慮しつつ向上心を持って継続的に働けるよう、研修派遣や資格取得を支援している。昼食は、階下の専任調理師が調理し、朝夕は職員が調理している。利用者は全員で野菜の下ごしらえをしたり、利用者と職員全員でテーブルを囲み、会話を交えながら同じ食事をする等、穏やかな日常を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活の中で個々の持っている力を活かし、その人らしく暮らせるような支援を理念として掲げている。日々の暮らしの中で、何を必要としているのかを常に念頭に置きながら、本人が出来る事や個々に合ったケアを実践に繋げている。	理念の共有と実践については、これまでの理念を利用者の現状に合わせて見直され、今年4月に全職員の意見をもとに検討し作り上げている。理念の、「穏やかに楽しく安心して過ごせるように支援します」のフレーズは、多くの職員意見であり、利用者の希望を汲み取り、個性を受けとめながら、理念に沿った支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居前の行きつけの理髪店や職員と一緒に近くのスーパーへ買い物に出かけたり、又施設周辺を散歩する事で顔見知りになり、会話を交わす等地域の方と交流を図っている。	事業所と地域とのつきあいについては、当初から自治会との関わりが継続され、運営推進会議にも自治会長や近隣の保育園園長も参加しており、行事等においても地域のボランティアや園児等も参加し交流している。利用者は地域のスーパーでの買い物や美容室・理容室等を利用し、地域とつながりを持ちながら支援している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学で来所された方に認知症状や支援方法等分かりやすく説明をしている。又、認知カフェに参加、入居者の手作りのアクセサリーや手工芸の作品をバザーに出品したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設のサービス状況、活動報告等を行い、意見や助言等意見交換を行っている。又参加委員からの情報提供を受け地域と共に防災訓練に参加をし、避難訓練に活かしている。	運営推進会議を活かした取り組みについては、利用者や家族、行政、自治会長、保育園園長、市議員等が参加し、利用者状況や事故報告等が行われ情報交換されている。今年度から行政の替わりに、2か所の地域包括支援センター職員が参加している。外部評価や議事録の公表もされている。知見者として介護保険を周知した同業者同志で相互に会議への参加の検討を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの交流会や運営推進会議に参加される保険者の方と、情報交換を行っている。又生活保護を受けている入居者が体調に変化があった時等は、状況報告したり、保護課担当者の方が施設に来所された際は入居状況を説明をし協力関係が築けるように努めている。	市町村との連携については、運営推進会議での情報交換はもとより高齢福祉担当課や生活保護課等へ出向き情報提供等を行っている。地域の防災マイクが聞こえない等の意見により、防災行政無線デジタル戸別受診機の設置に繋がっている。市グループホーム連絡会に行政も参加しており情報共有している。市から講師依頼等もある。今年度より市の協力を得て役所にて認知症カフェを実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者と職員は勉強会で身体拘束の理解を深め、拘束規定を念頭に置き、常に意識を持って、対応している。又階段入口は安全性を考慮し、フックをかけているが、自由に出入りできるようにしている。	身体拘束をしないケアの実践については、身体拘束をしないケアを基本に教育委員会が中心となり勉強会等を実施し理解している。転倒リスクのある利用者の居室は、ベッドを低くしたり、希望で畳を敷き詰めたり、センサー等で対応している。事業所は2階建ての2階にあり、安全面に配慮し、エレベーターはダブル押し、階段入口はドアをつけているが、利用者の要望にいつでも対応できる状況としている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に不快感や不安を与えないように言葉使いや接し方に気をつけている。虐待防止についての勉強会を行い、ケア方法や言動等職員同士で確認をし合い、防止に努めている。	虐待の防止の徹底については、勉強会を通し身体拘束・高齢者虐待の内容及び対策を理解するとともに、不適切なケアについての話し合い等、周知徹底している。例えば、血圧について何度も聞いてくる利用者に対し、その都度答える等、同じことを繰り返し聞いても「そうですね～」と、職員は穏やかに対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用されている入居者がいて、入居状況の報告をしながら、本人が不安な事があると、相談し、時には施設まで出向いてもらい、納得できるように、一緒に支えながら支援をしている。小遣い等は事務所の方が届けに来所され、本人と同席の職員にサインをもらう。金銭管理は本人がやっているが買い物の領収書は職員が管理している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や入居相談では、本人や家族が困っている事、必要としている事等その旨に答えられるように努めている。料金改正や変更がある場合は入居されている家族に事前に連絡を入れ、入居者、家族に説明をし了解を得た上で同意書を取り交わしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見書箱を設置している。家族が面会に来た時は入居状況説明や家族の要望を確認している。花が大好きな入居者がいて、家族が面会時には花を持って来る、花瓶の水を取り替えてほしいの要望があり、今は入居者と一緒に、毎日行っている。	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、利用者や家族が日頃から要望等が言えるよう気配りしている。「沖縄そば・肉が食べたい」等の利用者意見があり、献立に取り入れている。家族からは、カジマヤや敬老会に参加させたいとの意見に対応している。好みの衣類を毎日のように着けている利用者の対応として、家族と職員が相談し、衣類購入時は、同じ服を2着購入して支援する等、意見を反映している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員との面談を年に2回行いどうしたら職員が気持ちよく働けるのか等意見や提案を聞いている	運営に関する職員意見の反映については、職員の働きやすさに配慮するため、年2回の職員面談を実施し、職員自身の目標についての振り返りや話し合いの場となっている。職員からの意見で、休憩等ができるマッサージチェアーの購入、利用者の作成した手工芸品や布団等を収納する収納庫(コンテナ)を購入する等、運営に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩所がない為、くつろげるようにマッサージ機を配置した。又棚等がなく、物がゴタゴタしていたが、今回物置きを設置してもらい、施設内がスッキリして、気持ち良く働ける、物を探すのもスムーズに行えている。又小さい子がいる職員も働きやすいように休み希望等勤務調整を行っている。	就業環境の整備については、各職員の私生活も考慮しつつ向上心を持って継続的に働けるよう支援している。具体的には、介護職員処遇改善等による報酬改善はもとより、研修参加は業務扱いとし、実務者研修等の各種資格取得研修や職員希望の外部研修の費用も事業所に対応している。職員からの要望で他事業所への見学を兼ねた研修等も積極的に行われている。夜勤職員の健康面に配慮し、年2回の健康診断が期待される。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりが役割を持って働けるよう、各委員担当を決め、担当者は責任を持って取り組んでいる。外部研修に力を入れ、研修した職員は振り返りを行い、他の職員へも勉強会を開催し職員全体が知識を高め質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月2回グループホーム交流会を開催、意見交換をしている、開催場所は施設で行い、各事業所の見学や生活状況、取り組等参考にしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活の様子や、要望等を引き出せるように、耳を傾け、何を求めているか、本人の言葉や態度からも思いを受け止められる様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や入居前に本人及び家族の困っている事や不安に思っている事等を把握し、施設では何が出来るのか、どのように接するのか等説明し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入居相談の段階において可能な限り本人の状況について聞きとり、家族の意向を確認しながら、他のサービスの紹介も含め助言を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりの残存能力を活し、施設の買い物、調理手伝い、洗濯たたみ、片づけ等職員と一緒に協力しながら生活の支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運動会、敬老会等施設行事への参加を呼びかけ家族と共に楽しめる機会がある。施設では、ひとりひとりの誕生日会を行い、家族の参加もあり、入居者、職員も交え皆で祝っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通りがかりに、近隣の知人が訪ねて来ては、1階のベンチにてお茶をのみながら、話をされたり、入居者が昔住んでいた地域に出かけ、知人や親戚の家を訪ねて、状況を伝えている。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、本人や家族等から聞き取り把握している。ドライブ等で利用者が住んでいた地域へ出かけ、本人が住んでいた家を見に行ったり、昔馴染みのお店等、顔見知りの方との関わりを継続支援している。事業所へは、家族やいとこ、知人等も来所し交流を深めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、気の合う人、合わない人を把握し、席の配置等考慮しながら、良い関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談に乗ったり、道であったら声をかわす等近況の確認やアドバイス等関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、ゆっくり関わる時間を持ち本人の思いや要望を組み取るようにしている。又意思疎通が困難な場合は、行動、仕草、表情等で、その人がどうしたいかを組み取れる様に日々の生活状況の把握に努めている。	思いや意向の把握については、日々のケアをする際に利用者の発する言葉や体調変化等をもとに利用者の思いを推し量っている。日々の利用者同士の関係性や特性、家族との面会時の様子等、利用者の表情や行動を観察することで、職員は利用者の意向等が把握できる状況にある。利用者は、ベランダやソファで過ごしたいとの意向もあり、穏やかに過ごしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にその人の生活歴や環境の把握を行い又訪問した方からの情報も得ながら、入居中の生活に役立てられるような工夫をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの入居前の生活環境等の中から施設内で何が出来るのか、どのような対応がいいのか等の把握に努めている。心身状況の把握し、職員は共有し、個々の健康管理に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、入居者の変化に気づけるよう日々の健康状態の把握をし、家族からの意見を参考にしながら必要に応じ介護計画に反映させている。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、長期目標が6か月、短期目標を3月とし、半年ごとに介護計画を見直し作成している。介護計画に沿った支援内容はチェック方式で1月分が1枚に記録され、達成状況がひと目で分かるようになっている。利用者の状態は毎月のミーティングで話し合わせ、モニタリングも行っている。今年より、新しく見直された様式で一部利用者の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の心身状況を個別に作成、記録し、普段と違う状況の時は、支援経過に経過状況を詳しく記録、申し送りノート等で職員は共有し、様子観察に努めている。体調に変化があった場合は、見直しをして介護計画に活かせる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日が同じ時間ではなく、急に思い立ち、親戚に会いたい等と言う方がいた時には時間の調整を行い本人の思いがかなえられる様に、決められた枠の中でのケアをしないように工夫している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理髪店や施設の食材を買う青果屋、スーパーに職員同行で出かける。又、ある入居者は昔からの馴染みの美容室にて、散髪やマッサージ、エステを行い、楽しみを持って暮らしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には以前からの主治医だが、時にはかかりつけに相談し、受診したりして入居者の体調が安定するように連携を取っている。	かかりつけ医の受診支援については、入居以前からのかかりつけ医を継続するよう支援しているが、病状の変化に伴い医師の紹介で変更した方もいる。定期受診は他科受診も含め家族同行を基本とし、困難時には職員が送迎を行い、同行する場合もある。受診時は、情報提供書を作成し担当医に繋ぎ、家族からは口頭で受信結果の報告を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良等状況変化がある場合は、看護師に連絡をし、状況を説明指示を受け、対処している。日常のケアで気づきがある場合は申し送りノートや支援経過に記録し、いつでも把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報提供書、薬の文献等を提供している。入院中も見舞い、経過情報を聞き、退院後本人及び職員・家族が戸惑い困らないようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身状況の進行に応じて、本人や家族の意向等を話し合うようにしている。看取りについての取り組んできた経験を踏まえ、今後も入居者や家族のニーズにお応じられるよう工夫している。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、看取りを行う方針を明文化し、利用者や家族へ契約時に説明をしている。医師や看護師と連携を図り、家族とは状態の変化に応じた繰り返しの話し合いを行い、これまでに看取りを行った実績が4例ある。職員は勉強会や研修等でケアの統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は緊急マニュアルを見える所に提示しており、日常的に目にする事で、意識を高める事が出来る。又、職員が慌てないで対処できるように勉強会を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を交えた防災訓練や、地震想定、夜間想定自主訓練を行っている。近所の方にも参加をお願いしている。1ヶ月に1回非常用備品の点検を行っている。	災害対策については、年3回地域住民が参加し、昼夜を想定した防災避難訓練や地震・津波訓練を行っている。3日分の水や食料を備蓄し、カセットコンロやオムツ等の備品も準備している。毎月備品の点検や食料の入れ替えを行っている。防災受信機で行政から情報を得ることができる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あいさつ、言葉遣い、態度に気をつけ、入居者の人格、プライバシーを損ねない、支援をしている。特に排せつや入浴等には注意をはらっている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、馴れ馴れしい言葉遣いにならないよう、職員間で注意している。トイレと浴室のドアは二重にカーテンが取り付けられている。本人がトイレのドアの閉め忘れがないか注意を払い、名前の書いてある薬入れにはカバーをする等、プライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が理解しやすいような言葉掛けを行い、又会話の中で思いや要望を引き出せるように働きかけ、本人の希望に添えられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の心身状態を把握しながら、ひとりひとりのペースで過ごせるよう柔軟な支援を心がけている。入浴も本人の気持ちを優先に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは本人の好みの服を準備、困難な入居者は職員が好みを把握して準備をする。外出時は化粧をしたり、外出用服(普段着と分けてある)で、お洒落をして、楽しい気分で過ごせる様支援をしている。入居者の中にはネイルをしている方もいる。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員同行で食材の買い出しやお茶パック詰め、野菜の下準備等入居者の能力を活用して協力体制を築いている。食事時間は職員も同じテーブルに座り、一緒に食事を楽しんでいる。	食事を楽しむことのできる支援については、昼食は1階の小規模事業所で専任調理師が調理し配食され、朝夕の食事は、利用者と一緒に購入した食材を使って、献立を考え職員が交替で調理している。利用者は全員で野菜の下ごしらえをしたり、下膳を行う方もいる。利用者と職員全員でテーブルを囲み、同じ食事を摂っている。おやつはホットプレートで利用者と一緒に餃子等を焼く事もある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の確認表を個別に作成、1日の摂取量が確認でき、ひとりひとりの目安を把握、水分が少ない時は補給を促している。水やお茶を好まない方には水分補給としてコーヒーや紅茶等代用している。又口腔体操を食事前に行い嚥下防止に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは本人が磨いた後に、職員が確認、歯間ブラシ等使用して、磨き残しがないよう、口腔内の清潔保持に努めている。訪問歯科を利用、専門員によるケアや口腔状態を確認、アドバイスを受けながら支援している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表にて、状況を把握、トイレ促しや声かけなどを行い失禁を減らし、気持ち良く過ごせるように支援をしている。又、日中は綿パンで夜間はリハパン使用等個々状態に合わせた対応をしている。	排泄の自立支援については、排泄チェック表を活用し、トイレ排泄の支援に取り組んでいる。失敗時には、トイレにあるシャワーやウォシュレットを使用し清潔保持に努めている。ほとんどの利用者は日中はパットやリハパンを使用する等、本人に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認表で便の確認、毎日、朝の申し送りで個別に報告をしている。必要に応じ、主治医がらの内服処方(下剤)にて調整を行っている。便状態を確認し、健康状態を把握している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日に声かけし気がすまない方には時間をずらしたり、翌日に持ち越したりして気持ち良く入浴が行えるようにしている。又、バイタル測定や表情等を把握し体調に考慮しながら、入浴を行い、寝る前を希望する方は本人のペースで、いつでも入浴出来る様にしている。	入浴を楽しむことができる支援については、利用者は一日置きの入浴を基本としシャワー浴を行っている。気分や体調が優れない方は、翌日に変更する等して対応している。本人の希望で、毎日就寝前に入浴される方もいる。利用者自身で着替えの服を選んだり、どれにしたいか等を聞くよう努め、着替えの衣類は、なるべく利用者に選んでもらう支援を行なっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動として昼間体操、カラオケ、手工芸、等本人が興味のあるものを促し、夜間は熟睡できるようにし、又自席だけでなくソファで休まれる方もいて、好きな場所で休息ができるような工夫をしている。居室に光が入るのを嫌がり灯りが洩れないような工夫もしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の増量や変更がある場合は、用量、服用：注意事項など申し送りノートに記入、職員が理解しやすいようにしている。又、服用前は名前と日時を声を出しながら確認し本人にも確認してもらい服用してもらおう等の誤薬防止に努めている	服薬支援については、マニュアルが作成され、誤薬防止の勉強会も行われ、誤薬のない支援が実践されている。具体的には、その日のリーダーが、一日分の薬をセットし、他の職員が確認をしている。服用前に本人に名前と日付の声掛けをし、服用後再度職員が確認を行う等、誤薬防止の取り組みを継続的に行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ベランダにて気分転換を図る方や、1階のベンチや、施設周辺の散歩に出かける等楽しみにしている方もいる又、全員でドライブに出かけ、現地にて、おやつをいただき楽しめるような機会をつくり支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望で買い物に出かけたり、以前住んでいた場所に行きたいとの要望があるとその地域に出かけ、家族や知人を訪ねる等行い繋がりを持つようになっている。	日常的な外出支援については、毎週近くの店へ出掛け、おやつのてんぷら等の買い物や食材料の買出しをしている。利用者全員でファストフード店に出かけ、ポテトやジュースを注文し外食を楽しむ支援もしている。親戚宅への訪問等、その日に本人が行きたいとの希望がかなえられるよう、随時の外出支援も心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを所持している方は、金銭管理は本人でやっているが、時々残金を確認確、領収書は職員が管理している。買い物時は職員が付き添い、見守る。支払いで戸惑っている時は、さりげなく助言を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話をかけたい時は、職員が取り次ぎ、連絡をとれる様に支援している。毎年、年賀状を家族に出し、繋がりが絶たないようにしている。宛名や名前は本人に書いてもらっている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはクーラ温度調整で適温を保ち、西日が入る時間はカーテンを閉めている。又、ソファが配置され、くつろげる場所がある。窓には手づくりカレンダーを掲げていて、その月や曜日を毎日確認できる。カレンダーには入居者の誕生日の所に○印をつけて皆で楽しみにしている。	居心地のよい共用空間づくりについては、居間のソファでくつろいだり、ゲームや程よい音量のカラオケで民謡を歌ったりしている。壁に掛けられた手作りカレンダーに誕生者の名前が表示され、全員が誕生会を楽しみにしている。ベランダには、季節の野菜や草花が植えられ、ベンチが準備され景色を見ながら過ごせる場が設けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の空気に触れながら、景色を楽しんだり、仲のいい同士椅子を隣に並べ、テレビを見たり、ソファで、リラックスされている方もいて、ひとりひとりのペースで過ごされている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の要望により、テレビを配置したり、ラジオを枕元に置き、聞きながら気持ちよく休めるようにしている。又家族の意向で、ひな人形を飾っている居室もあり、本人が居心地良く過ごせるように支援している。朝は換気の入れ換えを行う。	居心地よく過ごせる居室の配慮については、居室はエアコンとベッドが備え付けてあり、利用者は人形やテレビ等を持ち込んでいる。壁には時計やちぎり絵等、本人の作品が飾られている。持ち込みの少ない利用者には、退去者からタンス等を譲ってもらう等して、居室空間づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を貼り、いつでも自分の部屋の確認ができる。又、出来る方は、離床時に職員と一緒に窓とカーテンの開け閉めを行う等日常生活の中で自分の出来る事を出来るだけ行うように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームごえくの里

作成日 : 平成 29 年 11 月 24 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	施設内での活動に地域ボランティアの方々の参加をお願いをして、繋がりを広めているが、身近な方々の中での専門的な知識や技術のある方に参加を促す。	入居者の家族及び知人、近所の方に施設に 来所してもらい手工芸や調理手伝い等の活 動を一緒に行う事で、楽しい時間を過ごして もらう。	入居者の家族、知人や近所の方に料理が好き な方や手工芸、園芸に興味ある方等の情報収 集、把握しながら、施設活動の中で活かせる取 り組みをする。四季を感じながら入居者の生活 意欲の向上に繋げる。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。